

あさがお 栽培のポイント ①



あさがおの種まきは暖かくなってから
早まらずにもう一日待つ余裕が大事です。



気温(温度)

●朝顔の発芽・生育に必要な気温は、**20℃以上**です。

全国平均では、5月の連休明け頃から種まきをするのがよいとされています。

(連休明け~5月末頃、寒冷地の場合、遅霜の心配がなくなってから)

例年よりも気温が低い場合は、早まらず、じっくりと時期を待ってから栽培を開始してください。



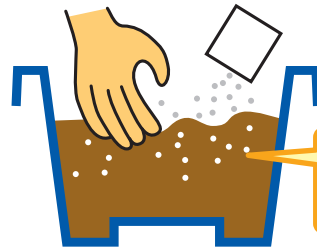
(土の準備)・水分

●当社の「土」と「あさがおの種」をご使用の場合、

まず植木鉢の半分くらいに土をいれます。

次に「つちにまぜるひりょう」を入れ混ぜてください。

※当社の「あさがおのたね」の袋の裏側に、たねのまき方の説明を書いています。



この肥料はあさがおの根が伸びてきたときに根にあたって効く肥料です。

●最後に残りの土を入れて、やさしく水をかけてください。

(少しだけ土を残しておく、種を撒いたあと、かるく土をかぶせる際に使えます。)

●**種まきをする前に、まず土にはしっかりと水をなじませてください。**

水は発芽に不可欠です。水分の無い土に種をまいて、上からジャバジャバと水をかけると、せっかく丁寧にまいた種を掘り返したり、逆に深く沈めたりしてしまいます。

上に出てしまうと、日光にあたり水不足になり、深く沈むと酸素が足らなくなります。そして水やりも、特に発芽までは種の真上よりも、その周囲にやさしく、そしてたっぷりとを心がけてください。



やさしく
ゆっくり
たっぷり

酸素

●生き物は酸素が無ければ死んでしまいます。

従って種をまく場合、その深さにも十分気をつけてください。

浅すぎず、深すぎず。

大体2cm~2.5cm程度とを考えてください。

人差し指の第一関節ぐらいの深さです。



深さは
2cm位

土について...

土はとても重要です。保水力、排水力ともにすぐれた良い土をお使いください。また肥料配合済みと、そうでないものもありますので、ご注意ください。